

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.167

2019. 8. 30

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

戦争も核兵器もいらない！二度と繰り返してはいけない思いをあらたに

広島と長崎への原爆投下から74年。あの悲惨な出来事が二度と起きないように、伝え続けていかなければいけません。今年も日本各地から若い世代を中心に原爆被害の実相を肌で感じ、戦争も核兵器使用も絶対にしてはいけないという思いをあらたにしました。

核兵器のない世界をめざし、ヒバクシャ署名をすすめます！

台風一過の晴天のなか、8月7日～9日に岩手県代表団35名の一員として「原水爆禁止2019世界大会 - 長崎」初めて参加させていただきました。



被爆者である横山照子さんの生々しい実体験を聞き、改めて核兵器の非人道性に胸を痛めました。「最後の力を振り絞って闘います。長崎を最後の被爆地にしましょう。核兵器のない世界を目指して」との訴えに、私たちの世代も共に行動し引き継いでいかなければならない、と決意しました。

日本政府が核兵器禁止条約への署名・批准をし、早期に条約が発効されることをめざして「ヒバクシャ国際署名」等の活動に取り組みたいと思います。(岩手県医療局労働組合 和田誠)

将来の平和のために伝え続けたい

長崎平和公園では、有名な「平和祈念像」を初めて実際に見る事が出来ました。祈念像の周りには各国から寄贈された平和を願うモニュメントが設置され、見学者も外国の方も大勢いて、平和への関心の高さを感じました。

祈念像前方にあった、水を求めてさまよった被爆者の方々へ水を捧げ冥福を祈る「平和の泉」が、泉の綺麗さと少女の手記の痛ましさが対照的で印象に残りました。また、長崎原爆資料館では、被爆者から実体験を伺いながら見学し、教科書からは感じ取れない戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、当たり前前の生活が奪われる悲しみがより深く感じられました。

分科会では、国際社会において、どのように平和の文化を次世代へ繋いでいくか皆で考えました。今の社会はSNSが発展し、気軽に誰でも世界へ発信できるようになっていますが、簡単になった分、悪意も広がりやすくなっています。そのようなツールを上手く利用し、言葉や文化の表現で他者へ「非暴力の思想」をどのように伝えていくかが重要になっていることを学びました。また、行政と文化のバランス関係（「9条」などの特定の言葉を使って講演会をすると会議室を貸してもらえない等）も話題になり、自分の仕事にも関わってくる部分なので考えさせられました。

これからの私たちの役割は、今回参加して感じたことや学んだことを、将来の平和のために伝えて続けていくことだとあらためて思いました。(一関市職労 阿部奈々)



広めよう！「安倍9条改憲NO！憲法をいかす全国統一署名」
岩手の3,000万署名数は17万6千筆（8月末現在）

署名ハガキは、419通・1,245筆分が届いています

沖縄と新しい「平和のかけはし交流」を築こう！



—矢巾九条の会第13回ピース in 矢巾 夢・まつり—

8月4日に参加30名で開催。まず、広島・長崎の原爆犠牲者と矢巾町の戦没者の冥福を祈り、黙とうをして会が始まりました。

今回は、「矢巾町から考える沖縄・自衛隊—専守防衛とは—」という演題で、岩手県平和委員会事務局長春山一男さんが講演。春山さんは、矢巾町議会で「日米地位協定の見直しを求める請願」が全会一致で採択されたこと、矢巾町から今年自衛隊に5名入隊したことを紹介。ドクターヘリと低空飛行訓練中のオスプレイとの接触の危険性や、現安倍政権下での大量の戦闘機購入の問題などを説明しました。

また、県内の他団体と平和運動の交流をすすめている春山さんは、岩手で1993年の大冷害後に沖縄県石垣島で「種もみ緊急増殖事業」を実施して以降、マラソン大会参加や高校生の交流など岩手と沖縄との「かけはし交流」エピソードも紹介。「沖縄の現状に関心を寄せ、観光地だけでない沖縄を訪問し、声を聞き、自分のこととして考えていこう」と新しい「平和のかけはし」交流を訴えました。

参加者からは、「沖縄と平和のかけはし交流を築いていこう」「日本の軍事費が拡大している現状を知り、反戦、改憲阻止に意欲が増した」等の声が出されました。（高橋秀子）



コラム — マハティール首相、再び「憲法9条」を評価！

マレーシアのマハティール首相が、「塾」講師として訪問した福岡市で日本国憲法9条を再び高く評価したことが報じられています。

曰く、日本国憲法9条は戦争を紛争解決の手段とすることを禁じており、他国も見習うべきだ、改正せずに維持するべきだとの考えを示した、と。また、日本に自衛の戦力は必要だとしながら、防衛力を強化すれば特定の国から積極的に戦争に参加するよう促される可能性があり、それは世界の平和にとって大きな後退だと懸念した、とも。

故郷（ふるさと）の歴史研究活動をしている市民の中に未だに、「南京大虐殺は無かったと思う」「他国から侵略されたときは軍備を持って戦争すべきだ」などと平然と言う人がいるのも昨今だと思います。日本国憲法は何処に行ったのかと思わざるを得ないのは、コラム子だけでしょうか。

毎年8月は日本にとっては、「敗戦記念日」の月。日本国憲法を「正しい歴史認識」に立って学びなおす時だと思います。突然の日韓関係悪化！日本国民として忍びないところもありますが、相手国側から信頼されるまで、我々日本側が「正しい歴史認識」に立つことで悪化した日韓関係は改善されるでしょう。日本側の議論は、報道番組でもこの「立場」が殆ど抜け落ちているのではないのでしょうか。韓国が悪い、韓国が悪い…と。（T）

お知らせ ＜青年劇場「あの夏の絵」盛岡公演＞

平和の伝承の形としてテレビでも紹介された、広島市立基町高校の生徒たちが被爆者から被爆体験を何度も聞いて油絵にし展示・保存している活動を劇化。すでに全国の劇場や学校などでも上演され、大きな感動と反響が広がっています！

12月7日(土) 13:30~15:35 (開場13:00)

盛岡市キャラホール大ホール

前売券／一般3,000円(当日3,500円)

学生1,000円(小学生以上。当日も同一金額) 全席自由

*チケットは、盛岡市内各プレイガイド、いわて生協店舗等で9月中旬から販売予定。当日は、会場に油絵のレプリカも展示します。



《9月の署名活動》 9日(月)12:30~13:00 盛岡市大通・野村證券前

安倍政権下での改憲に多くの国民が反対の声を上げている中、安倍首相は改憲論議を進めようとしています。引き続き3,000万署名を呼びかけますので、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。